

令和5年度教育委員会点検評価

[評価対象期間]

令和5年4月1日～令和6年3月31日

加西市教育委員会
加西市教育委員会評価委員会

○ 教育委員会評価にかかる困難度基準の設定

困難度	困難度設定の基準
高	加西市独自に取り組むもので、達成が困難なもの
	国、県の基準を超えて加西市独自の基準で取り組んだもの
	定額交付金制度等における市費の予算措置の獲得と事業推進にかかるもの
	その他、障壁が大きく、客観的に達成困難と思えるもの
中	以前から取り組んでいるもので、達成に努力を要するもの
	国、県の基準で行うもので、達成が困難なもの
	要綱に則るが、市の推進方向、学校の実態に沿う取組で、達成が困難なもの
	その他、客観的に達成に大きな努力を要するもの
低	国、県の基準で行うもので、達成可能なもの
	以前から取り組んでいて、達成可能なもの
	その他、客観的に達成可能と思えるもの

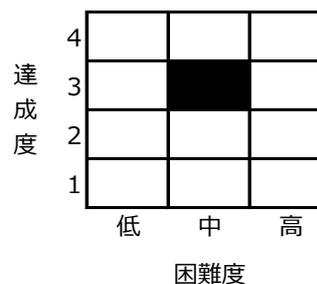
○ 教育委員会評価にかかる達成度基準の設定

達成度	達成基準
4	目標を大きく超えて達成
3	目標を超えて達成
2	ほぼ目標を達成
1	目標を下回る

○ 評価基準の表示方法

評価基準の表示については、横軸：困難度、縦軸：達成度として塗潰して表示する。困難度は高い順に高、中、低の3段階、達成度は高い順に4～1の4段階で評価する。

右の例示は困難度中、達成度3。



令和5年度 加西市教育委員会点検評価 総括表

「令和5年度教育の重点」の中から点検評価の取組項目として採用したのは以下のとおりです。

番号	取組項目	評価		頁
		困難度	達成度	
1	家庭や関係機関との協力の下、保健的で安全な保育環境を確保します。 異年齢児との交流をはじめ、多様な感情体験の工夫により人とかかわる力を育成します。 福祉部門や保健部門のネットワークや個別の発達支援ファイルを活かした支援を行います。	中	3	2
2	0歳児から2歳児の受け皿となる小規模保育や一時預かり、病児・病後児保育、地域子育て支援などの事業を充実させます。 放課後に小学校の余裕教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。	中	3	3
3	積極的な授業改善により、学習の基盤となる資質・能力を育成しつつ、「確かな学力」を育成します。 加西STEAMを推進したり、ICT機器の活用の工夫を行うことで、自ら学ぶ意欲を育成します。	中	3	4
4	「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に努め、人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます。	中	4	5
5	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。	中	2	6
6	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。	中	2	7
7	兵庫県教員資質向上指標に基づいた研修や教職員のニーズに応じた実効性のある講座の開設と、ニーズに応える実用的な図書の実用性を図り、教職員の資質能力の向上に努めます。	中	2	8
8	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。	高	2	9
9	「人生100年時代」を念頭に、住民のニーズを的確に把握し公民館主催講座やシニアカレッジかしの木学園などで、それぞれの年代に応じた多岐に渡る多様なテーマの講座を開催します。また、オーケタウン加西においては自然活動など、野外での活動をテーマにした講座を開催します。 「公民館まちづくり出前講座」を推進し、学習成果を発表できる場、学んだことを地域に還元する場となるようコーディネートに努めます。	中	3	10
10	歴史文化遺産を活かした地域の活動への支援を拡充します。	中	3	11
11	市立図書館と学校図書館とが連携し、子どもの読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。 こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整えるお手伝いをします。	中	3	12
12	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人まで多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。 スマート図書館システムの導入により、公共施設・学校との連携を強化し、サービスの充実を図るとともに、電子図書利用サービスの普及促進を図ります。	中	2	13

番 号	1	所属課	こども未来課				
基本方針	幼児期の子育て支援の充実						
基本施策	「生きる力」の基礎を育む幼児期の教育・保育を充実します。						
取組項目	家庭や関係機関との協力の下、保健的で安全な保育環境を確保します。 異年齢児との交流をはじめ、多様な感情体験の工夫により人とのかかわる力を育成します。 福祉部門や保健部門のネットワークや個別の発達支援ファイルを活かした支援を行います。						
取組内容							
①	幼児が夢中で遊び込める環境を整える。(遊びを中心とした保育環境づくり)						
②	幅広い年齢の人とのかかわりや、様々な感動体験、経験の場を設定する。						
③	特別支援教育の充実を図る。						
主な指標	区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
① 指標	こども園評価において「園は子どもたちが遊んだり生活したりするのにふさわしい環境となっているか」→よくあてはまると回答した割合 (%)	目 標	65	67	70	73	75
指標についての説明	子どもたちが遊びながら学ぶ環境づくりにおいて、保護者から見た満足度	実 績	62	65	71		
R5実績内容	コロナが5類に移行し、保護者が園の行事に参加したり、園内の様子を見たりする機会が増えたことで環境づくりへの理解が深まった。	達成率	95%	97%	101%		
② 指標	こども園評価において「異年齢の交流を喜んでいるか」より「よくあてはまる」「あてはまる」と回答のあった割合 (%)	目 標	-	90	92	93	94
指標についての説明	様々な人との触れ合い体験や交流活動の場の設定による保育の評価	実 績	-	89	90		
R5実績内容	異年齢交流や地域の方との交流の機会が増えた。	達成率	-	99%	98%		
③ 指標	特別支援教育担当者会・コーディネーター会議・障害児研修会・園内研修への参加により職員の資質向上に努めた回数 (1園平均)	目 標	-	-	15	15	16
指標についての説明	特別支援教育について学ぶ機会を多くもつことにより全体のレベルアップを図る。	実 績	-	-	16		
R5実績内容	外部での研修会への参加に加え、園内で支援担当者会をもち職員の専門性の向上に努めた。	達成率	-	-	107%		
取組の主な成果(達成度根拠)	評 価						
①昨年度に引き続き、外部講師を招いての園内研修を実施し、職員全体の資質向上と保育環境や遊びの充実を図ることで保育の専門性を高めることができた。	達成度	4					
②小学校との交流、高校生ボランティアの受け入れなど、様々な人とのふれあい体験、交流の場をもった。また、地域とのつながりを大切に、地域の人から野菜作りの指導を受けたり、一緒に収穫体験を行った。		3					
③トライアングルプロジェクトの理解促進に努め、他機関とのつながりをもって障害児保育に取り組むことで、特性理解を深め、さらなる保護者支援にも繋げた。		2					
		1					
			低	中	高	困難度	
今後の課題							
②さらなる地域との交流の場を設定し、ふれあい体験の機会を増やしていく。							
③心理士など専門家の園訪問の回数を増やし、保育現場での実践的な援助の充実を目指す。							
教育委員 評価コメント							
・職員の向上を図ることにより、子ども達への関わりがどのように変わっていったのか。レベルアップとは、どのようなものなのか。 ・こども園同士の交流や保育士間での入れ替え配置を短期間で行うことで保育現場が活性化できるのではないか。 ・②の取組の成果について、どれくらいの回数で行われたのかが曖昧である。具体的な数値がほしい。							

番 号	2	所属課	こども未来課						
基本方針	幼児期の子育て支援の充実								
基本施策	子育て家庭を支える子育て環境を充実します。								
取組項目	0歳児から2歳児の受け皿となる小規模保育や一時預かり、病児・病後児保育、地域子育て支援などの事業を充実させます。放課後に小学校の余剰教室や敷地内の専用棟等を活用して適切な遊びや生活の場を提供します。								
取組内容									
①	アンケートを実施し、常に保護者のニーズに合った広場事業の運営を実施する。								
②	様々な事情により、家庭保育を受けることが困難な子の受け皿の充実に努める。								
③	就学後も保護者の就労継続支援のため、子どもが安心して過ごせる学童保育環境の向上を図る。								
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	子育てひろば利用者に対する満足度調査 質問項目に対して、「満足」、「やや満足」と回答した割合(%)	目 標	-	80	85	87	90	
指標についての説明		ひろば参加者へのアンケートを実施し、親子の交流の場、気軽に子育て等に関する相談・援助を実施する場として機能しているのかを数値化する。	実 績	87	78	94			
R5実績内容		参加者は減少したが、支援員の対応やイベントの内容等については、満足されている方が多かった。	達成率	-	98%	111%			
②	指標	毎年3月1日現在、こども園等に入所している0～2歳児について、前年度に対する増加率(%)	目 標	-	-	1.0	1.0	1.0	
指標についての説明		前年度に比べ、入所している0～2歳児が増えていることで、保育の受け皿の充実度の目安とする。	実 績	0.2	9.4	0.9			
R5実績内容		小規模保育施設2園を新規開設したことにより、0～2歳児の受け皿の確保ができた。	達成率	-	-	90%			
③	指標	学童保育園在籍児童へのアンケートでの「学童に行くのを楽しみにしている」との設問に「そう思う」「少しそう思う」と答えた者の割合(%)	目 標	-	-	90	91	92	
指標についての説明		こども家庭庁発足に伴い、子どもの意見聴取を進める方針であることから、児童が概ね満足していると考えられるラインとして設定。	実 績	-	-	87			
R5実績内容		学童全体としては目標を若干下回ったが、学童では友人との遊び(玩具や外遊び等)を楽しんでいる割合が高いことが窺えた。	達成率	-	-	97%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①保育料無料化により入所者数が増加した影響で、平日のひろば事業参加者が減少した。その中でも、工夫を凝らし、イベントを実施するなど、参加者からは好評を得ている。</p> <p>②小規模保育施設開設により、受け皿を確保することができ、10月まで待機児童の発生を抑制することができた(10月時点で1名、12月時点で2名、3月時点で3名の待機児童が発生)</p> <p>③子どもが安全に安心して過ごせる学童保育とは、何かあったときに支援員が注意したり、仲裁するのではなく、子ども同士が繋がり、トラブルの問題解決ができる力を身につけ、子どもの自治によって秩序が保たれた居心地のいい場所である。そのため、単なる見守りや注意一辺倒でなく、個々の思いに寄り添った支援や声掛けを心掛けるような指導を行った。その結果、目標には僅かに届かなかったものの、大多数の児童は学童保育で過ごすことを楽しみと捉えられている。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
							低	中	高
困難度									
今後の課題									
<p>①ひろば事業参加者が減少しているため、交流の場を確保するとともに、気軽に子育て等について相談・援助する場として、広く周知・PRしていくことが必要。</p> <p>②待機児童の発生を抑制するために、保育士等の確保が重要となる。</p> <p>③学童保育園では学年が上がるにつれ、楽しみに思う割合が減少している。成長に伴い、自宅で自由に過ごすことに価値を見出すことも予想されるが、学童でのその子なりの楽しみや一緒友達を見つけられるような支援ができるよう、支援員全体のさらなる資質向上が必要。</p>									
教育委員 評価コメント									
<p>・①、②の目標値がない時点での実績はどのように考えればよいのか。</p> <p>・③支援員が足りない点はどなったのか。支援員の保障は世間並なのか。</p>									

番 号	3	所属課	学校教育課						
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実								
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。								
取組項目	積極的な授業改善により、学習の基盤となる資質・能力を育成しつつ、「確かな学力」を育成します。 加西STEAMを推進したり、ICT機器の活用の工夫を行うことで、自ら学ぶ意欲を育成します。								
取組内容									
①	かさい学力向上プロジェクト事業によって、児童生徒の学力向上を図る。								
②	学校づくり×STEAM教育推進事業を活用することで加西STEAMを推進し、児童生徒の自ら学ぶ意欲を育てる。								
③	一人一台端末やSTEAM Labo.の活用により、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。								
主な指標		区 分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	全国学力・学習状況調査（「国語・算数（数学）」の標準化得点 ※セル → 左：国語、右：算数（数学）上：小6、下：中3	目 標	100	100	100	100	100	
指標についての説明		正答数をもとにした標準化得点（100点）を目標値とすることで、経年比較が比較的容易にできるため。	実 績	98,101 101,100	100,99 100,101	99,99 99,99			
R5実績内容		昨年度と比べ、小6は国語が少し下がり算数は同程度、中3は国語・数学ともに少し下がる結果となった。	達成率	98,101 101,100	100,99 100,101	99,99 99,99			
②	指標	全国学力・学習状況調査「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的な回答した割合（％）	目 標	78, 81	77, 79	80, 80	83, 83	83, 83	
指標についての説明		全国平均値を目標値とすることで、加西市の児童生徒が全国の児童生徒の中でどの程度の位置にいるかを明確に知ることができるため。	実 績	81, 80	81, 77	81, 76			
R5実績内容		小6は目標値を上回る一方、中3は下回る結果となった。中3の課題解決へ向かう前向きな学習態度が低下している実態にある。	達成率	104% 99%	105% 97%	101% 95%			
③	指標	全国学力・学習状況調査「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した割合（％）	目 標	95, 93	94, 93	95, 95	98, 98	98, 98	
指標についての説明		全国平均値を目標値とすることで、加西市の児童生徒が全国の児童生徒の中でどの程度の位置にいるかを明確に知ることができるため。	実 績	97, 95	97, 93	97, 95			
R5実績内容		小中学校ともに、目標値を上回る実績となっている。ICT機器を学習に効果的に活用している児童生徒の実態が顕著に表れている。	達成率	102% 102%	103% 100%	102% 100%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①小中学生ともに、標準化得点上、若干の低下がある。これは、教師の授業改善の視点がまだまだ明確ではなく、「児童生徒にどんな力を育てるのか」の見極めが甘いことが考えられる。教育の手段や方法を支える「付けるべき資質・能力ベースの視点」が弱いことが考えられる。</p> <p>②課題解決へ向かわせる学習指導の在り方について、小学校は日々の授業や日常生活の中で、自分の考えを話したり書いたりする場面を大切にきた成果だと思われる。一方、中学校は学習内容の多さやその難しさから、教師による一斉指導がまだまだ根強く、生徒自身に考えや決断、判断を求めたり、新たな考えやものを創り出したりさせる場面が十分ではないことにより、数値の低下を招いていると考えられる。</p> <p>③ICT機器を使うことはあくまで手段であり目標ではない。普段使いの文房具としてICT機器の活用を促す学習指導の成果が、数値として表れている。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
					困難度				
今後の課題									
<p>①県費教職員に加え、市費会計年度任用職員（スクールアシスタント等）、地域人材を有効に活用し、きめ細やかで弾力的な指導により、学習の基盤となる資質・能力を育成する「加西BASE」を推進していくことが課題となる。特に、学力向上を目指し、児童生徒の実態や学習状況を的確に捉え、願いや希望のある授業改善を目指す。</p> <p>②また、小学校から中学校へ発達段階を進めるに従い、単元や題材のまとまりの中で、自分で考える場面や決断・判断をする場面、加えて新たなものを創造する場面を意図的に作り、自分から学ぶ意欲を高め、自律的な学習姿勢や態度、力を育む。</p> <p>③ICT機器の日常的な活用をさらに進め、授業の中でも個別学習を進める場面と仲間と協働的に学ぶ場面を明確にすみ分け、自分から学ぶ意欲を高めるようにする。</p>									
教育委員 評価コメント									
<p>・STEAM Labo.活用があまり見えてこないように思うが、推進されているのか。端末を頼りすぎると授業の視点がブレて方向性を失うのではないかと思うのだが。今後の課題に対して、もう少し具体性を盛り込んで欲しいと願っている。</p> <p>・ICT学習の情報を収集し、どのように成果が上げられるのか加西BASEとして内容を築いてほしい。</p>									

番 号	4	所属課	学校教育課			
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実					
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。					
取組項目	「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実に努め、人間形成の基盤となる自尊心・自律性・道徳性など「豊かな心」を育てます。					
取組内容						
①	「特別の教科 道徳」を要として、道徳教育の充実に努め、自尊心自律性道徳性など「豊かな心」を育てる。					
②	思いやりの心、規範意識、自尊感情を養うなど、「心の教育」の充実を図るため、兵庫型「体験教育」を推進する。					
③	社会参画に必要な態度や能力を育てるために、キャリア教育を推進する。					
主な指標		区分	R 3 R 4 R 5 R 6 R 7			
①	指標	全国学力・学習状況調査「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した割合(%)	目 標 小6 中3 80, 86 81, 86 83, 86 83, 86 83, 86			
指標についての説明		全国平均値を目標値とすることで、加西市の児童生徒が全国の児童生徒生徒の中でどの程度の位置にいるかを明確に知ることができるため。	実 績 小6 中3 79, 66 79, 66 81, 71			
R5実績内容		小中学生ともに目標値を下回る結果になったが、過去2年の実績と比べると、道徳授業への取組を効果的に行っている。	達成率 小6 中3 99% 98% 98% 77% 77% 83%			
②	指標	全国学力・学習状況調査「自分には良いところがあると思う」と回答した割合(%)	目 標 小6 中3 77, 76 79, 79 83, 80 83, 83 83, 83			
指標についての説明		全国平均値を目標値とすることで、加西市の児童生徒が全国の児童生徒の中でどの程度の位置にいるかを明確に知ることができるため。	実 績 小6 中3 82, 83 80, 79 83, 84			
R5実績内容		小中学生ともに目標値を上回る結果となった。8割以上の児童生徒が自分の良さを発見し前向きに学校生活を送っている。	達成率 小6 中3 106% 101% 100% 109% 100% 105%			
③	指標	全国学力・学習状況調査「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した割合(%)	目 標 小6 中3 52, 44 51, 41 50, 50 53, 50 53, 50			
指標についての説明		全国平均値を目標値とすることで、加西市の児童生徒が全国の児童生徒生徒の中でどの程度の位置にいるかを明確に知ることができるため。	実 績 小6 中3 57, 37 47, 33 80, 71			
R5実績内容		小中学生ともに目標値を大きく上回る結果となった。地域や社会への興味関心を深める児童生徒が増えている。	達成率 小6 中3 110% 92% 160% 84% 80% 142%			
取組の主な成果(達成度根拠)			評 価			
<p>①道徳については、「体験による道徳教育」＝「教育活動全体で行う道徳教育」と、「考え合い・話し合いによる道徳教育」＝「道徳の時間」で道徳性を育てている。実際、道徳の授業については、講師招へいにより校内研究を中心とした教師の学びを継続して進めている。このことが児童生徒のアンケートの数値にも表れていると考えられる。</p> <p>②市内の児童生徒の課題であった「自尊感情」や「自己有用感」の低さについて、指定研究校の取組や全校的な体験活動の重視によってかなり改善したが、近年はやや低下傾向にあり、見直しが必要となっている。</p> <p>③加西STEAMを通した3C次世代型人材の育成を目指し、これまでの「探究し知る学び」にとどまらず、「発想し創る学び」へと学習サイクルへ繋ぐことができています。このことが、指標の達成度にも寄与している。</p>			達成度			
			4			
			3			
			2			
			1			
			低 中 高 困難度			
今後の課題						
<p>①教師が道徳の授業においても、児童生徒を指導するという既成概念を取り払い、児童生徒自身が自分を主語にして他者との対話、自己との対話を通じて、自分なりの納得解を追求していくという学びの本質を追求していく必要がある。</p> <p>②近年のやや低下の原因がどこにあるのかを検討するため、現状の把握と分析を進めていきたい。</p> <p>③小学生、中学生が地域や社会で果たす役割はこれからも大きい。教職員が未来の大人を育てているという感覚を俯瞰的に持ちながら、日々の業務にあたる必要がある。その上で、児童生徒に、今の自分に何かできることはないか、目の前の地域、社会のために何ができるのかといった「自分事としての視点」をしっかり持たせ、その兆しを逃さず伸ばしていく教職員の見取りや言葉かけ、学習支援が課題である。</p>						
教育委員 評価コメント						
・加西STEAM教育の成果が発揮できていることは喜ばしい。また、地域と学校の一体とした教育も成果が出ていることも喜ばしい。						

番 号	5	所属課	教育総務課						
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実								
基本施策	学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します。								
取組項目	学校給食を通じた食育の推進などによって、生涯を通して健康で安全な生活を送るための基礎を養い、「健やかな体」を育てます。								
取組内容									
①	地産地消による市内産食材の使用量を拡大し、学校給食を軸とした食育の取組を推進する。								
②	給食調理や食育をテーマとしたセミナー、研修講座を開催し、教職員、調理員、児童生徒、保護者の意識啓発に努める。								
③									
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	市内産食材の使用率 1人当たりの年間消費重量 (kg)	目 標	18.0	20.0	20.0	21.0	22.0	
指標についての説明		市内農家と学校給食をつなぐ食育を推進するため、市内産の食材の消費量を5年後に22kgをめざす。	実 績	19.4	17.7	17.4			
R5実績内容		地元産の新しい食材の開拓とそれを使ったメニューの開発や市内産の有機米の給食を実施した。	達成率	108%	89%	87%			
②	指標	講習会、セミナー、研修会等のアンケート結果 (%)	目 標	-	80	90	90	90	
指標についての説明		栄養士や調理員を対象とした給食調理や食育・衛生に関する研修会等において、受講前より意識が高まったと答えた回答者の割合を90%とする。	実 績	-	80	82			
R5実績内容		衛生管理研修会（全調理員）の参加や給食で使用している地元野菜農家、販売店（愛菜館）の見学会を実施した。	達成率	-	100%	91%			
③	指標		目 標						
指標についての説明			実 績						
R5実績内容			達成率						
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①地元の農業高校と協力し、学校給食で使用できる新たな食材を開拓し、新しいメニューの開発に取り組み、地元産農産物の使用の種類を増やすことができた。</p> <p>①地元の農業高校が育てた有機米を給食に取り入れた。(1回)、また、有機米については、農業高校生が作成したチラシを各学校に配布し、有機農業に対して児童・生徒の興味関心が高まった。</p> <p>②全国学校給食週間を中心に「感謝の手紙」の取組を行うことで、生産者や調理員、配送する人との距離が縮まり、食への関心が高まった。</p> <p>②衛生管理研修会に参加し、同じ仕事をしている者どうして研修を受け、見識を深めるとともに情報交換も実施することができた。</p> <p>②地元産野菜の生産者や販売者の話を聞くことで、食材がより身近なものとなり、食材に対する知識や愛着が高まった。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
							低	中	高
困難度									
今後の課題									
<p>①愛菜館や市内農業者から地元産野菜を購入しているが、天候に収穫量が左右されることも多く、今後安定して供給してもらえる方法を考えていかなければいけない。</p> <p>②栄養士や調理員に対する研修を充実させるとともに、栄養教諭による栄養・食育指導の充実を図り、児童・生徒の食に対する関心・意欲をより一層高めていく必要がある。</p>									
教育委員 評価コメント									
<p>・地産地消による給食が関係者一同に広まり、地元ならではのアイデアメニューが出てくれば良いのではないかと。これからはもっと小、中学生も興味を持つ行事が盛んになれば、もっと広がっていきだろう。</p>									

番 号	6	所属課	教育総務課						
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実								
基本施策	児童生徒の成長を支える学びの場を充実します。								
取組項目	児童生徒が安心して学べる学校環境を整備し、地域の特性に応じた魅力ある学校づくりを推進します。								
取組内容									
①	良好な学習環境整備の一環として、学校内の照明器具を目に優しく、環境にも配慮したLED照明に順次更新する。								
②	学校内のトイレの洋式化を進め、良好な環境整備を図る。								
③	子どもと教職員、保護者、地域の様々な人たちが、一緒に成長できる場となるよう最高の環境づくりをめざし学校再編を進めるため、情報発信を積極的に行う。								
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	LED照明の更新数（基）	目 標	1,448	2,776	3,529	4,586	5,401	
指標についての説明		学校内の灯具をLED化する。 15校 5,401箇所	実 績	1,448	2,844	2,855			
R5実績内容		LED照明の工事は、主に夏休み中に実施するため、学校再編方針が未確定であったため、令和5年度は工事を見送った。	達成率	100%	102%	81%			
②	指標	学校施設のトイレの洋式化（箇所）	目 標	6	10	20	30	40	
指標についての説明		屋外トイレ、体育館、プールの和式トイレを洋式改修する。 15校 40箇所	実 績	6	7	7			
R5実績内容		令和5年度については、対象トイレの設計業務を行った。（工事については、令和6年度に実施予定）	達成率	100%	70%	35%			
③	指標	情報発信を毎月1回行う。（回）	目 標	-	-	7	12	12	
指標についての説明		保護者、地域の合意形成を図り、丁寧な説明を行う。	実 績	-	-	7			
R5実績内容		9月より市の広報で、毎月教育委員会の情報を発信した。保護者、地域の意見を丁寧に聞き学校再編の方針を決定した。	達成率	-	-	100%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①令和5年度については、学校再編方針を12月末に発表したため、通常夏休み中に実施するLED工事の発注を見送り、修繕工事で実施した分の取り換えのみにとどめた。</p> <p>②トイレの洋式化工事についても、令和5年度は設計業務を実施し、工事は令和6年度に実施する。</p> <p>③学校再編にあたっては、保護者説明会を実施し、また地域の意見をタウンミーティングでお聞きしながら、こどもたちにとって、最高の学習環境となるよう学校再編の方針を決定した。また、再編方針発表後も地域別に説明会を開催し、最終的に再編方針を決定した。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
					低 中 高 困難度				
今後の課題									
<p>①学校再編の方針にあわせて、灯具のLEDの更新の見直しをする。</p> <p>②令和6年度に5年度設計分と合わせて2年分工事を実施する。</p> <p>③こどもたちにとって最高の学習環境となるよう、丁寧に学校再編をすすめていく。</p>									
教育委員 評価コメント									
・学校再編が入ってくるため、再度計画を練り直す必要がある。									

番 号	7	所属課	総合教育センター						
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実								
基本施策	児童生徒の成長を支える学びの場を充実します。								
取組項目	兵庫県教員資質向上指標に基づいた研修や教職員のニーズに応じた実効性のある講座の開設と、ニーズに応える実用的な図書の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努めます。								
取組内容									
①	教職員のキャリアステージや専門分野に応じた研修、授業改善も含めた指導力向上をねらいとした研修を企画し、受講促進を図る。								
②	学校現場のニーズに応じた内容や講師を設定することで、充実した学びと喫緊の課題に向けた研修講座を開設する。								
③	新規購入希望図書調査による教育図書の拡充および、年4回の移動図書館実施等による利用促進を図る。								
		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	受講者による資質向上（知識・スキル）の自己評価点（点） （5点満点とした受講者の自己評価の平均点）	目 標	-	-	4.0			
	指標についての説明	受講者が研修講座受講により資質が向上したと自己評価した評価点の平均値を目標に設定	実 績	-	-	4.3			
	R5実績内容	R 5の全研修終了後、対象となる受講者285名のアンケートによる自己評価平均点は4.3点	達成率	-	-	108%			
②	指標	受講者によるニーズに対する各講座の評価点（点） （5点満点とした受講者評価の平均点）	目 標	4.50	4.50	4.70	4.70	4.70	
	指標についての説明	過去の実績と評価項目の見直しにより目標値を設定 ※R4 評価項目の見直し	実 績	4.79	4.67	4.65			
	R5実績内容	各講座終了後に実施したアンケートによる、受講者1,447名の各講座のニーズに対する評価平均点は4.65点	達成率	106%	104%	99%			
③	指標	センター図書の貸出冊数（冊）	目 標	900	1,000	1,000	1,000	1,000	
	指標についての説明	過去の実績をもとに、市内教職員約300人が、1人平均3冊以上利用することを目標に設定	実 績	962	918	995			
	R5実績内容	団体貸出（移動図書）が908冊、個人貸出が87冊あり、合わせた貸出実績は995冊	達成率	107%	92%	100%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①教職員のスキルと資質向上をねらいとした全44研修講座を企画・実施し、のべ1,447名の受講があった。アンケート結果から、知識・スキルの向上に対する自己評価点が目標値を上回ったことから、研修講座が教職員のスキルと資質向上の一助となったと考える。</p> <p>②各講座毎に実施したアンケート結果から、受講者のニーズに応える研修講座であったことがわかり、学校現場での困り感や課題解決への支援が出来たと考える。</p> <p>③教職員のニーズに応じた新規購入図書の選定と年4回の移動図書館実施により、令和3年度962冊、令和4年度918冊を上回る995冊の貸出冊数となった。</p> <p>以上のことより、総合的に「ほぼ目標を達成」とした。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
							低	中	高
					困難度				
今後の課題									
<p>①今後も継続して、学校現場の運営や教職員の負担が大きにならない時期、時間帯、研修方法を検討しながら研修講座を開設する。</p> <p>②学校現場における、教師力向上（授業力向上、学級経営力向上、生徒指導力向上等）、不登校対策、発達支援等、喫緊の課題が山積しており、研修講座の充実がより一層求められている。</p> <p>③喫緊の課題に対応した、タイムリーな教育雑誌の貸出実績（40冊）が少ないため、学校現場への周知の仕方を検討する。</p>									
教育委員 評価コメント									
<p>・社会の急速な変化の中で、児童生徒の実態が日々変化し、また教育や教員に求められるニーズも変化していく中で教職員の資質能力の向上はとて大きな課題となっている。市内教職員のスキルアップや教育ニーズに応える図書の充実等にしっかりと取り組まれている。これからもよろしく願いたい。</p>									

番 号	8	所属課	総合教育センター						
基本方針	主体的に自立しようとする子どもの教育の充実								
基本施策	児童生徒理解を基盤とした生徒指導体制を推進します。								
取組項目	子どもの内面理解に基づく生徒指導を充実し、児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援を行います。								
取組内容									
①	「いじめ見逃し0」を目指し、いじめの積極的認知をし、いじめ問題への迅速かつ組織的に対応し、重大事態を未然に防止する。								
②	スクールソーシャルワーカー等が学校・関係機関と情報共有し連携することで、不登校児童生徒を状況に応じた適切な支援に繋げる。								
③	発達に特性のある児童生徒に対して、個に応じた支援ができるよう、保護者や学校が相談できる体制を整え、提供する。								
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	市内小中学校において認知したいじめの解消率 (%) ※いじめの解消とは3か月以上行為が止んでいる状態	目 標	90	90	90	90	90	
指標についての説明		令和4年度の国の解消率77%より、約10%上回る値を目標値として設定	実 績	80	69	86			
R5実績内容		14%が解消に向けて取組中であり、担任等による被害者への聞き取り等を行いながら組織的に経過を観察している。	達成率	89%	77%	96%			
②	指標	不登校児童生徒のうち学校内外の機関で相談・支援を受けている割合 (%) ※学校内外の機関とは、教育支援センター、市福祉機関、SC等	目 標	100	100	100	100	100	
指標についての説明		全ての市内不登校児童生徒を適切な相談・支援に繋げることを目標として設定	実 績	91	90	99			
R5実績内容		99%の不登校児童生徒が学校内外の機関で相談・支援を受けることができている。残り1%の児童生徒をいかに相談・支援につなげていかが課題である。「誰一人取り残すことのない相談・支援に努めていきたい。	達成率	91%	90%	99%			
③	指標	発達特性に関わる相談及び発達支援プログラムに参加した延べ人数 (人)	目 標	1000	1000	1000	1000	1000	
指標についての説明		過去の実績をもとに児童生徒またはその保護者や教職員が、支援のために相談やプログラムにつながることを目標値として設定	実 績	972	877	745			
R5実績内容		R5の相談件数はほぼ同数であったが、発達支援プログラムでは昨年度末で卒業した児童が多く、実績としては減少となった。	達成率	97%	88%	75%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①いじめの積極的認知により、重大事態の未然防止につながっている。被害児童生徒の不安が完全に取り除かれたかを継続的に確認できているが、解消に向けて取組中の事案もあり、解消率が100%には達していない。</p> <p>②4月からSSWを3名体制にし、9月北条中学校、令和6年2月加西中学校に校内フリースクールを設置した。支援体制を整え、各種相談支援の周知を行うことで、相談支援につながる不登校児童生徒が増加した。</p> <p>③発達に関わる相談等は昨年度並みに対応できた。しかし、発達支援プログラムは令和4年度に小学校卒業した児童が多く、新規の参加が少なかったため、実績数の減少となった。</p> <p>以上のことより、「ほぼ目標を達成」とした。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
					低	中	高		
					困難度				
今後の課題									
①何をもちたいじめの解消とするのは難しく、被害児童生徒に寄り添い、長い期間を継続して見守る必要がある。									
②不登校児童生徒が増加傾向であるなか、家庭の事情や距離等の問題により、支援場所や相談につながるの難しい児童生徒への対応を考える必要がある。									
③平日の放課後にある発達プログラムには、児童の疲れ、送迎の問題等により、参加が難しい児童や保護者への対応・支援を検討する。									
教育委員 評価コメント									
・「いじめ見逃し0」を目指した取組や不登校、発達特性をもつ児童生徒に対し、一人一人に寄り添い対応されており、大いに評価できる。また、中学校4校中2校に校内フリースクールを開設され、相談支援につながる不登校児童生徒が増加したことは素晴らしい。今後も更なる取組をお願いしたい。									

番 号	9	所属課	生涯学習課						
基本方針	生涯にわたる学習の充実								
基本施策	生涯にわたって学び、楽しめる環境づくりを推進します。								
取組項目	<p>「人生100年時代」を念頭に、住民のニーズを的確に把握し公民館主催講座やシニアカレッジかしの木学園などで、それぞれの年代に応じた多岐に渡る多様なテーマの講座を開催します。また、オークタウン加西においては自然活動など、野外での活動をテーマにした講座を開催します。</p> <p>「公民館まちづくり出前講座」を推進し、学習成果を発表できる場、学んだことを地域に還元する場となるようコーディネートに努めます。</p>								
取組内容									
①	市民や時代のニーズを的確に把握し、地域・学校・企業等とも連携して、幅広い年齢層に対応した学びを提供する。								
②	様々な媒体を利用して生涯学習情報の発信を行い、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりを推進する。								
③	地域からの要望と登録グループを“つなぐ”ことにより、「公民館まちづくり出前講座」の活動を推進する。								
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	公民館主催講座等受講者の満足度調査（点 [5段階評価]）	目 標	—	3.2	3.2	3.5	3.5	
指標についての説明		主催講座等の受講者に講座についての満足度調査を実施し、時代や市民のニーズにあった学習が提供できているか検証する。	実 績	—	4.4	4.5			
R5実績内容		主催講座として連続講座を33講座、かしの木学園は各館9回と合同学習会1回開催し、受講生を対象に講座満足度を含むアンケート調査を行った。	達成率	—	138%	141%			
②	指標	公民館ホームページの平均閲覧数（回/月）	目 標	4,100	4,200	4,300	4,400	4,500	
指標についての説明		公民館ブログ更新や主催講座等のPRをすることで、公民館の利用を促進したいため、ホームページの閲覧数を目標として設定した。	実 績	4,089	5,393	3,663			
R5実績内容		主催講座やかしの木学園の活動を公民館ブログに掲載するとともに、登録グループの紹介を行った。	達成率	100%	128%	85%			
③	指標	出前講座開催回数（回）	目 標	—	25	30	35	40	
指標についての説明		学びの成果を地域に還元することが公民館活動の目的の一つである。出前講座の回数から地域での生涯学習の推進状況を見る。	実 績	16	22	73			
R5実績内容		全戸配布の公民館への誘いやホームページに登録グループの概要や活動内容を紹介した。また、活動状況により感謝状を贈呈した。	達成率	—	88%	243%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①主催講座として連続講座33講座、単発講座（夏休み子ども・親子講座など）8講座を実施。主催講座、かしの木学園受講生のアンケート調査では、満足度は目標を大きく上回った。</p> <p>②ブログの更新数（73回）は前年度並みであったが、館による差が大きく、HPの閲覧数は、前年度を下回り、目標に届かなかった。月ごとの閲覧数を見ると、冬以降の閲覧数が減少傾向にある。</p> <p>③コロナの制限がなくなり、地域の敬老会やいきいきサロンなど社会教育活動が回復傾向にあり、出前講座の回数は前年度比3.5倍と大幅に増加した。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
					低 中 高 困難度				
今後の課題									
<p>①市民ニーズや時代に即した魅力的な講座を企画し、幅広い世代の市民の参加を促す。（今年度実施した公民館講座ドラフト会議や公民館講座プレゼン会議を活性化させる。）</p> <p>②公民館ブログの更新頻度を増やすとともに、LINE等のSNSを活用し、公民館活動が市民等の目に触れる機会を増やす。</p> <p>③高齢化等の理由により活動休止や解散するグループも出始めていることから、主催講座から登録グループへの移行を進める。</p>									
教育委員 評価コメント									
<p>・4年度まではコロナによる行動制限が、5年度ではなくなりつつある中で、4年度までとの比較では評価しにくい部分がある。コロナ前に戻るのではなく、コロナ後の「生涯学習」のあり方を充分検討し、みんなが生き生きと活動できる取組をめざしていただきたい。</p>									

番 号	10	所属課	生涯学習課						
基本方針	生涯にわたる学習の充実								
基本施策	「楽しみながら、活かす、歴史文化遺産」を推進します。								
取組項目	歴史文化遺産を活かした地域の活動への支援を拡充します。								
取組内容									
①	「歴史文化を活かしたまちづくり活動補助事業」制度の活用増加を図り、歴史文化遺産を継承する地域の活動を支援する。								
②	市内文化財のデジタルアーカイブ化や、埋蔵文化財整理室・その他の施設での展覧会を実施する。								
③	歴史文化遺産の積極的な公開活用を実施し、市域の歴史文化遺産の魅力を広く発信する。								
主な指標			区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
①	指標	地域団体等による歴史文化遺産を活用した活動に対する支援件数	目 標	10	17	20	20	20	
指標についての説明		補助事業の充足率を測るため、支援件数を目標として設定した。	実 績	17	19	16			
R5実績内容		歴史文化を活かしたまちづくり活動補助として16件支援した。活用事業9件、美化事業6件	達成率	170%	112%	80%			
②	指標	歴史資料等の公開、活用事業への参加人数	目 標	—	—	130	130	130	
指標についての説明		展示や講座開催を通じて、市民が歴史文化遺産に興味を持つことができる機会を設け、関心度を参加人数で把握する。	実 績	—	—	1,063			
R5実績内容		加西の歴史展等展示 2 件、歴史遺産ウォーク等のイベント 4 回、講座 3 回実施した。	達成率	—	—	818%			
③	指標	歴史文化関連ブログ（HP）の閲覧数(回/年)	目 標	—	800	1,100	1,100	1,100	
指標についての説明		HPの閲覧数を目標として設定し、情報発信に取り組み、市民の関心を高める。	実 績	759	1,038	1,797			
R5実績内容		補助金等の制度周知、指定文化財、埋蔵文化財の等を紹介し、周知した。	達成率	—	130%	163%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①受付開始時には問合せが多く、制度の周知はできている。実施されようとする事業について、じっくり話を聞き、地域の歴史文化遺産を守り活用する団体の支援ができた。申請はしたが、実施できない団体もあり、支援件数は目標を下回った。</p> <p>②5年度は、観光協会を通じてラジオ番組HPでの告知等周知方法を工夫したり、他のイベント開催に合わせた大きな事業を2件実施した結果、目標を大きく超え、展示や公開事業に参加を得られた。小学校での出前講座や公民館講座方の講師依頼も増えた。</p> <p>③閲覧数は目標を上回った。指定文化財のページの閲覧が全閲覧数の64%を占め、指定文化財に対する関心が高い。</p> <p>①以外、目標値を上回っているが、他のイベントと開催により、通常の展示、公開、活用事業と比較して参加人数が多くなったと思われるため評価は困難度中、達成度3とした。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
					低 中 高 困難度				
今後の課題									
<p>①申請団体に対して、未実施とならないように、申請時に計画に無理がないか等を更に丁寧に聞き、具体的なアドバイスをしていく。</p> <p>②市民が参加しやすい機会に展示活動が行えるように、他部署の行事等とのコラボレーションも視野に入れ計画していく。出前講座の活用が増えるよう、周知する必要がある。</p> <p>③HPの閲覧数は、指定文化財のページの閲覧数が多い。指定文化財の情報の更新は適時適切に行うようにし、より魅力的なページとなるよう検討する必要がある。</p>									
教育委員 評価コメント									
・歴史文化関連ブログ(HP)の閲覧数が増えたことは喜ばしいが、特に小、中学校に歴史を知ってもらうように文化財巡りのようなプランを組めば活性化できるのではないかと。									

番 号	11	所属課	図書館						
基本方針	生涯にわたる学習の充実								
基本施策	市立図書館の資料及びサービスの充実と情報化を推進します。								
取組項目	市立図書館と学校図書館とが連携し、子どもの読書への関心を高め、読書活動の推進を図ります。こども園や学校への図書託送サービスや図書相談を行い、それぞれの読書環境を整えるお手伝いをします。								
取組内容									
①	こども園や学校からの図書館見学を受け入れ、こども園や学校に向いておはなし会やブックトークを実施する。								
②	こども園や小・中・特別支援学校からの依頼による図書の団体託送サービス及び公立こども園・中学校への定期的な本の巡回貸出を実施する。								
③	学校図書館の整理・活性化に関する相談や本の廃棄作業の支援をする。								
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
①	指標	学校等へのおはなし会、ブックトーク等の出前講座及び図書館見学(回)	目 標	10	17	18	19	20	
指標についての説明		小・中学校等との連携回数	実 績	21	22	29			
R5実績内容		出前講座・・・こども園3園、小学校16校、中学校4校 図書館見学・・・小学校6校	達成率	210%	129%	161%			
②	指標	公立こども園、小・中・特別支援学校への図書の団体貸出託送サービス(冊)	目 標	2,600	4,000	2,900	3,000	3,100	
指標についての説明		こども園、学校で図書館の本がどれくらい活用されているかを測る (R4年度は、学校図書館の電算化により学校図書が利用できない期間があり、図書館の本の利用が見込まれるため貸出冊数の目標数値を高めた。)	実 績	2,873	7,931	3,035			
R5実績内容		学校等から依頼を受けて、図書館から貸出した本の冊数	達成率	111%	198%	105%			
③	指標	学校図書館に関する相談や本の廃棄作業(延べ学校数)	目 標	2	8	4	5	5	
指標についての説明		市立図書館の学校図書館環境整備に関する関わり度合い (R4年度は、学校図書館の電算化により学校からの相談が増加すると見込まれるため、目標数値を高めた。)	実 績	4	9	2			
R5実績内容		学校図書館に関する相談・・・小学校2校	達成率	200%	113%	50%			
取組の主な成果(達成度根拠)					評 価				
<p>①ブックトーク・おはなし会について、コロナ以前の状態に戻ってきた。コロナ禍で令和2年度以降、利用のなかったこども園からも依頼があり活動を再開したが、子どもたちにとって大切な活動であると再認識すると同時に利用者(園)からも同様の感想と大変効果的な活動であるとの意見をもらっている。</p> <p>②令和4年度は、学校図書館電算化のため、団体貸出の依頼が多くあったが、令和5年度は平年とおりの依頼数であった。</p> <p>③学校図書館に関する相談については、令和4年度に多くの学校で実施したため、令和5年度はそれほど相談がなかった。</p>					達成度	4			
						3			
						2			
						1			
							低	中	高
困難度									
今後の課題									
③各学校に学校図書館システムを導入し、図書室の本の整備もできた。今後も学校図書館の整備充実が一層推進されるように、図書館も支援をしたい。また、学校図書館を利用する児童生徒が増えるような工夫を図書館も学校と共に考えたい。									
教育委員 評価コメント									
<p>・主な指標の①のR5実績内容で、出前講座は幼児園を除く全てのこども園、小学校、中学校で実施されたことは、大きな評価に値する。</p> <p>・学校とよく交流ができて很高兴い。図書館に来て、もっと交流できるようなプランを立てることで、活性化していくことを願う。</p>									

番 号	12	所属課	図書館							
基本方針	生涯にわたる学習の充実									
基本施策	市立図書館の資料及びサービスの充実と情報化を推進します。									
取組項目	図書資料及びサービスの充実を図り、幼児から大人まで多様な世代に向けた読書喚起への取組に努めます。 スマート図書館システムの導入により、公共施設・学校との連携を強化し、サービスの充実を図るとともに、電子図書利用サービスの普及促進を図ります。									
取組内容										
①	図書資料を充実し、魅力あるイベントを開催することにより来館者数の増を図る。									
②	図書資料の貸出、視聴覚資料の視聴、イベント等参加者の増を図る。									
③	非来館型サービスを充実させるため、電子図書館サービスを実施する。									
主な指標		区分	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7			
①	指標	図書館来館者数（人）	目 標	210,900	213,200	215,400	217,700	220,000		
指標についての説明		来館者数をコロナ禍前の人数に戻せるように設定	実 績	174,871	176,447	192,467				
R5実績内容		図書館に来館した利用者人数	達成率	83%	83%	89%				
②	指標	図書資料の貸出、視聴覚資料の館内視聴、イベント参加等の図書館サービス利用者数（人）	目 標	100,000	100,500	101,000	101,500	102,000		
指標についての説明		図書資料及びサービスの充実度を測るため	実 績	98,145	93,955	96,318				
R5実績内容		図書館内での利用だけでなく、アステアかさいの施設を利用した図書館主催・共催のイベント参加者数	達成率	98%	93%	95%				
③	指標	電子書籍閲覧回数（回）	目 標	—	—	12,000	13,200	14,400		
指標についての説明		電子図書館サービスの利用度を測るため	実 績	—	—	19,409				
R5実績内容		電子書籍には、読み放題や郷土資料等、貸出することなく複数の利用者が読むことのできるコンテンツがある。そのため、指標を貸出数ではなく閲覧数としている。	達成率	—	—	162%				
取組の主な成果(達成度根拠)						評 価				
<p>①年間来館者数については、様々なイベントを数多く実施、また、雑誌の付録がもらえる企画など、図書館に足を運んでもらえるよう工夫した。</p> <p>②・LINE連携やスマート登録サービスを運用し、図書館をより便利に簡単に利用できるようした。 ・映画会等イベントについては、人数制限を緩和して開催した。</p> <p>③・電子図書館サービスについては、学校にも働きかけ、児童生徒に利用してもらえるよう工夫したことで、目標を超えて達成した。 ・電子図書館サービス及びLINE連携機能をより多くの方に知ってもらうため、善防・南部・北部の3公民館に赴いて、講座及び図書の貸出を実施した。</p> <p>以上、電子書籍閲覧回数は目標を大きく超えて達成したが、それ以外の指標は目標に到達できなかったため、達成度を「2」とした。</p>						達成度	4			
							3			
							2			
							1			
						低	中	高		
						困難度				
今後の課題										
<p>①②新型コロナウイルスによる来館者数減への影響はほぼ無いと思われる。しかし、一旦図書館に来館しなくなった人を再度図書館に引き付けるための工夫が必要である。</p> <p>①②学校と連携することで、子ども達に本をより身近に感じてもらい、図書館利用に繋げたい。</p> <p>③電子図書館サービスのよい点をPRし、多くの方に利用してもらえるよう、引き続き広報を行う。</p>										
教育委員 評価コメント										
<p>・主な指標①の来館者数の減少については、堀内教授もご指摘のように電子図書館サービスによる減少も要因の1つであると思われるので、単に①の実績の数値だけの捉え方だけをしないで③との相対的な増加と考えてよいと思われる。</p> <p>・スマート図書館の普及で来館者が伸び悩むのは仕方がないことだ。周りの店などと協力(コラボ)して、特典やポイントを付けるなどの工夫を検討してもよいだろう。</p>										

教育委員からの質疑と回答

番号	質問	回答	担当課
	・職員の向上を図ることにより、子ども達への関わりがどのように変わっていったのか。レベルアップとは、どのようなものなのか。	保育の方法やスタイルは、時代によって変化しているので、様々な専門分野の研修等を受けることで、変化に対応でき、一人一人により丁寧に関わろうとするようになる。 個々の特性を理解し、園全体で適切な援助や環境構成等を工夫しようとするのが、レベルアップに繋がると考える。	こども未来課
1	・②の取組の成果について、どれくらいの回数で行われたのかが曖昧である。具体的な数値がほしい。	・小学校とは、リレー・プール・作品展・運動会・音楽会・授業等の見学等、また、小学校によっては小学生が準備した遊びに招待してくれることもあり、年に数回～10程度交流 ・高校生（北条・播農）ボランティアは、8月2日～4日の間で2、3日 ・播農生の家庭科の授業として保育参加1日 ・野菜作りの指導では、いつも気にかけて来てくださる方もあり、年10回以上お世話になっている園もある。	こども未来課
2	・①、②の目標値がない時点での実績はどのように考えればよいのか。	過去に遡って目標設定はできないため、実績数値の年毎の推移で状況を見ていただきたい。	こども未来課
	・③支援員が足りない点はどうなったのか。支援員の保障は世間並なのか。	通常時の支援については必要数を確保できている。夏季休業中の支援員は現在募集をしている。 加西市の支援員の賃金労働条件は他市と比べても遜色は無い。	こども未来課
3	・STEAM Labo.活用があまり見えてこないように思うが、推進されているのか。端末を頼りすぎると授業の視点がブレて方向性を失うのではないかと思うのだが。今後の課題に対して、もう少し具体性を盛り込んで欲しいと願っている。	令和5年度も、学校の実態やニーズに応じてSTEAM Labo.（ラボ教室）の活用が着実に進んでいる。小学校での活用は、例えば同じ校区の小学校が合同で行う「自然学校事前・事後の交流学習」や「道徳のオンライン授業」がある。中学校での活用は、鹿児島の中学校との「オンライン平和学習」がある。 また、小中学校全体を通して、民間業者によるSTEAMプログラム等の授業活用がある。 端末の活用はあくまでも手段であり、児童生徒が自ら学び、確かな力を育成し、主体的に自立する子どもの育成をすることが目的である。この目的を軸にし、授業改善に向かい、確かな学力の育成に努めていく。 なお、今後の課題についての具体性については、次の報告から「加西BASE」の観点で具体的に触れながら説明する。	学校教育課
11	・取組の主な成果①で、R4年度までに利用のなかったこども園からの依頼があったことで利用者の意見や反応等、どのような変化があったのかを記入される方が分かりやすい成果になる。	こども園からの依頼につきましては、令和4年度まで一度もなかったということではなく、コロナ期間中は依頼がなく実施できなかったというものである。ただ令和元年度以来となるこども園での活動では、子どもたちが楽しんでくれる様子や身をのりだして見てくれる様子などを見て、子どもたちにとって必要で大切な活動であると再認識すると同時に利用者（園）からも同様の感想と大変効果的な活動であるとの意見をもらっている。	図書館

総合コメント

評価委員会 堀内委員の評価	概ね妥当
<p>教育委員会の点検・評価により市民への説明責任を果たしていくということも念頭に、令和5年度の教育委員会点検評価においては、全体を通じて点検評価シートの更なる創意工夫と改善が進められ、市民にとってより分かりやすいものとなりました。</p> <p>評価の達成度については、取組項目の全体の半分以上が目標を超えて達成されていることが確認できました。あわせて、昨年度まで大きな課題であった目標を下回る達成度「1」もなくなりました。これらのことから、全体を通じて、課題を解消しつつ順調かつ着実に取組が進められていることが確認できました。今後もこの方向性を維持しつつ進めていくことが期待されます。加えて、現状に満足せず、点検対象とする取組項目について、可能な範囲でさらに拡大し、点検・評価を通じたより一層の効果的な教育行政の推進を図っていくことも重要です。</p> <p>今後の改善点としては、一部の指標設定について、コロナ禍において設定された目標値の上方修正が必要であると考えられるものがあること、取組項目によっては更なる適切な評価のためアウトカム指標を積極的に導入すべき余地があること、などが求められるのではないかと考えます。またシートを見ただけでは取り組みの成果がどのような考え方で評価や達成度に反映されているのかという点について、やや説明不足で分かりにくい取組項目もいくつか見受けられました。</p> <p>第3期「加西市教育振興基本計画」の対象期間は令和5年度点検・評価により折り返しの年度となりました。点検・評価の結果を生かされつつ、基本計画の後半における取組のより一層の充実と、加西市における教育の質の更なる向上、「すべての人が学び・育みあうまち」の実現を願っております。</p>	

評価委員会 澤山委員の評価	概ね妥当
<p>昨年度に引き続き、各施策の点検評価シートについて、自己評価に留まらず、教育委員からの評価コメント欄や質疑応答の枠を設けられている点が、多様な観点からの評価を確保する上で有効な取り組みになっていると思われます。また、評価シートの形式的な側面については、昨年度のコメントに基づいて、今年度、多くの改善を図っていただきました。結果として、点検評価の結果について、より読み取りやすいものにしていただけたのではないかと思います。</p> <p>以下、今後のご参考としてご検討をいただけましたら幸いです。</p> <p>○「主な取組の成果」の欄に、「実施した」「工夫した」「開催した」のように、教育委員会の取組と見られる内容のみを挙げられている項目が一部見られますが、これらは取組の成果というよりも、取組内容として挙げられるべきもののように思われます。取組の成果としては、取組の結果、市民がどのように変化したのかといった、市民、および、当初定義された問題事象の変化に焦点を当てた記述にしていただけるとより良いように思われます。</p> <p>○関連して、各取組項目や取組内容はどのような問題事象に対応するために設定されたのかが各評価シート上でわかるように、冒頭で簡潔にターゲットとする問題の定義（目標と現在（年度当初）の状態にどのようなギャップがあるか）を述べていただけるとより良いように思われます。この際、長期的な施策については、昨年度までの成果や進捗状況の記述を含めていただくと、これまでの経過がより読み取りやすくなるのではないかと思います。</p> <p>○「主な指標」について、教育委員会の取組状況を測るものだけが挙げられている項目も一部見られますが、その取組の結果、市民がどのように変化したのかといった、市民に焦点を当てた指標も、各項目に少なくとも1つは含めていただけるようにしていただけるとより良いように思われます。教育委員会の取組状況のみが主な指標として挙げられていると、教育委員会の取組さえ実行されれば（市民がどのような状態であれ）問題は解決したと考えているかのようにも読めてしまうように懸念されますが、そのように考えることのできる項目は実際のところほとんどないのではないかと思います。</p> <p>○上記に関連して、評価シートの形式上、ここでいう「主な指標」が何の指標であるのかが曖昧になってしまっているようにも思われます。教育委員会の取組状況の指標を含めても良いと思いますが、それだけになってしまうと先述した問題が懸念されますので、タイトルを「施策の効果を反映すると考えられる主な指標」などとした上で、3つの指標のうち少なくとも1つは、市民に焦点を当てた指標の専用枠を設けるなどして、教育委員会の取組状況だけを注視しているわけではないことがわかるようにしていただけると良いかもしれません。</p>	

※評価委員会の評価については、「妥当」「概ね妥当」「やや不適」「不適」の4段階評価とする。

教育委員会評価委員会

教育委員会の点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する方の知見や、客観性を確保することが可能となる方の意見をいただき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすことを趣旨としており、次の方々に評価委員をお願いしました。

評価委員会委員	
所 属	氏 名
兵庫教育大学大学院 教授	堀内 昭彦
兵庫教育大学 准教授	澤山 郁夫